

はじめに



回復期リハビリテーション病院
病床数120床



季美の森リハビリテーション病院

■ 本院が所在する大網白里市の高齢化率は増加傾向にあり、**28.5%**と全国平均27.3%、千葉県平均25.4%を上回っている*（図1参照）。伴って、要介護認定者数も増加傾向にあり、**要介護認定者率は15.4%**と高値を示している（図2参照）。大網白里市では平成28年度より**介護予防・日常生活支援総合事業**が開始されるなど、介護予防に対する取り組みが徐々に活発化されている。

■ 本院は回復期リハビリテーション病院として開設してから4年目を迎え、昨年度の延入院患者数は480名と年々増加傾向にある中で、**在宅復帰率は86.2%**(全国平均**82.2%***)と自宅退院に至った症例は少なくない。一方、在宅復帰に至った症例に対する**フォローアップ体制にはまだ課題を有している**。対応策として、今年度より**外来患者対応枠の拡大**を図り、さらに、医療保険から介護保険へのシームレスな移行を実現すべく、**通所リハビリテーション**を開設した。現在、**訪問リハビリテーションの立ち上げ**も計画している。

■ 今後、さらに質の高いリハビリテーションの提供を図るため診療体制の整備や多職種間連携によるチームアプローチの充実化などを行っていく。また、**地域に開かれた病院**を目指し、**地域住民に貢献すべく**、本院が有する資源を最大限活用し、**介護予防に関する活動を行うこと**も検討している。**ちば地域リハパートナーとして行政と連携**を図り、講演や体操教室などの開催を企画している。

*2016年度比較 *診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(平成29年度調査)速報値

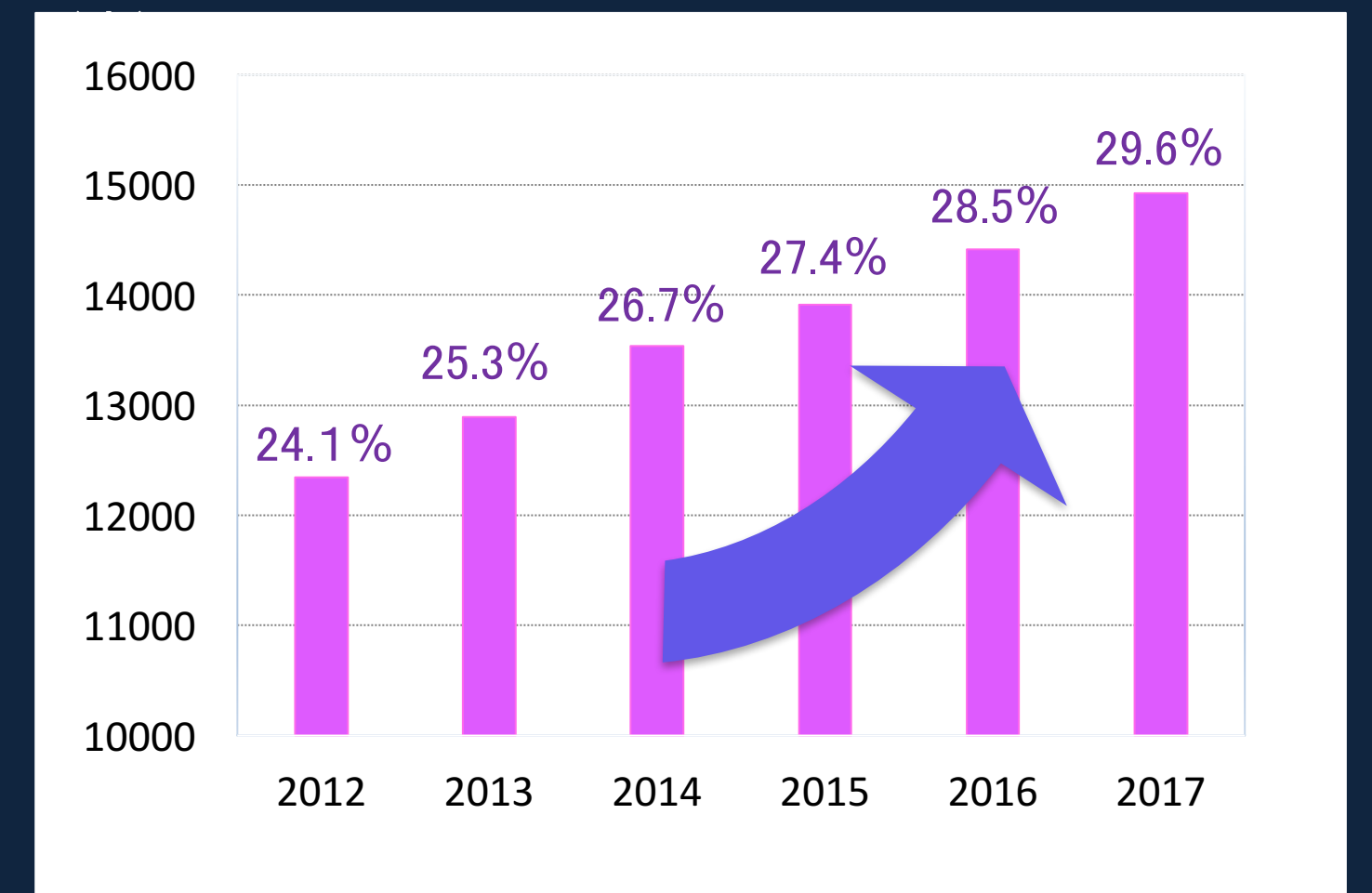


図1 大網白里市の高齢者数（高齢化率）の推移

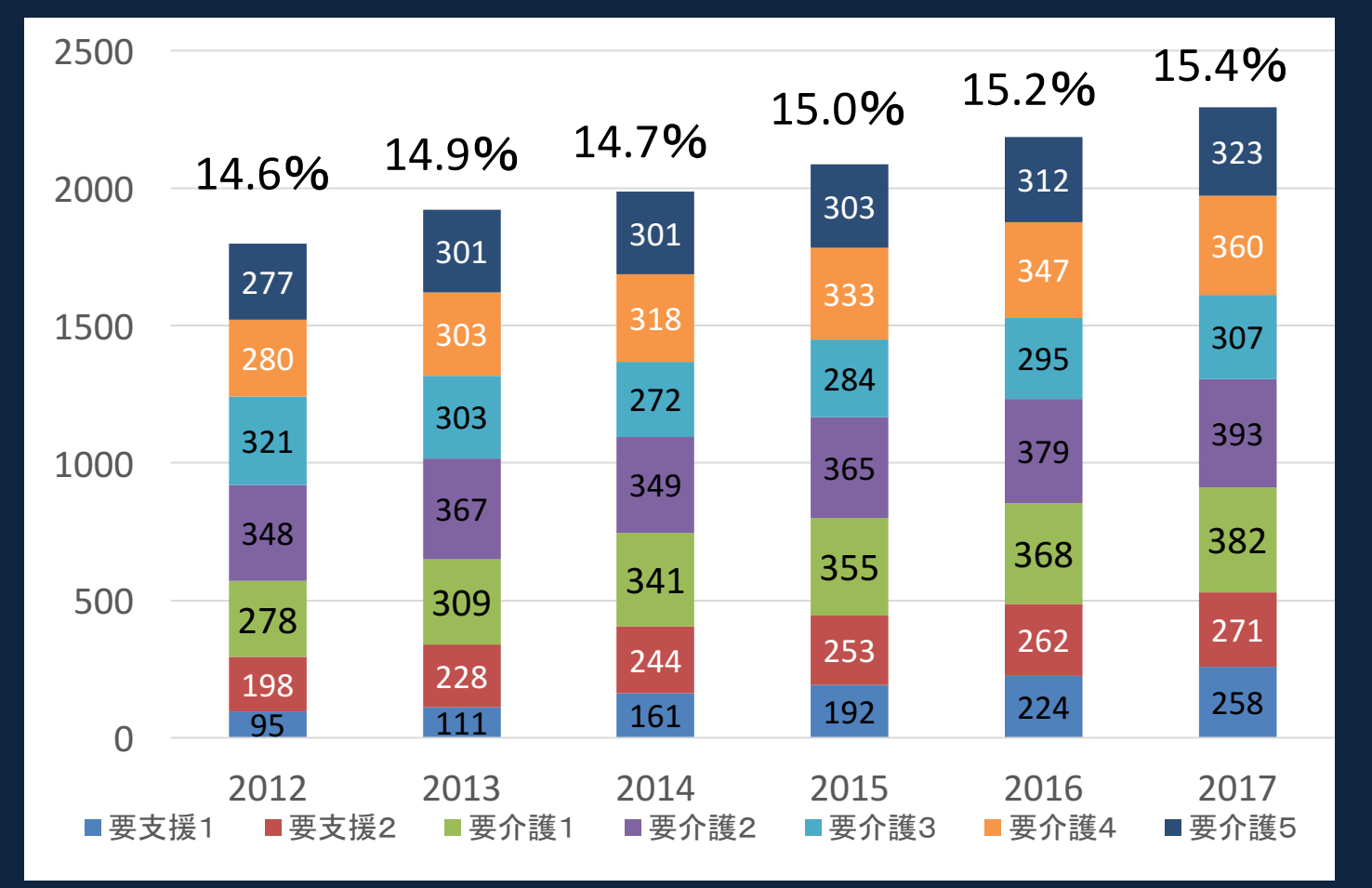
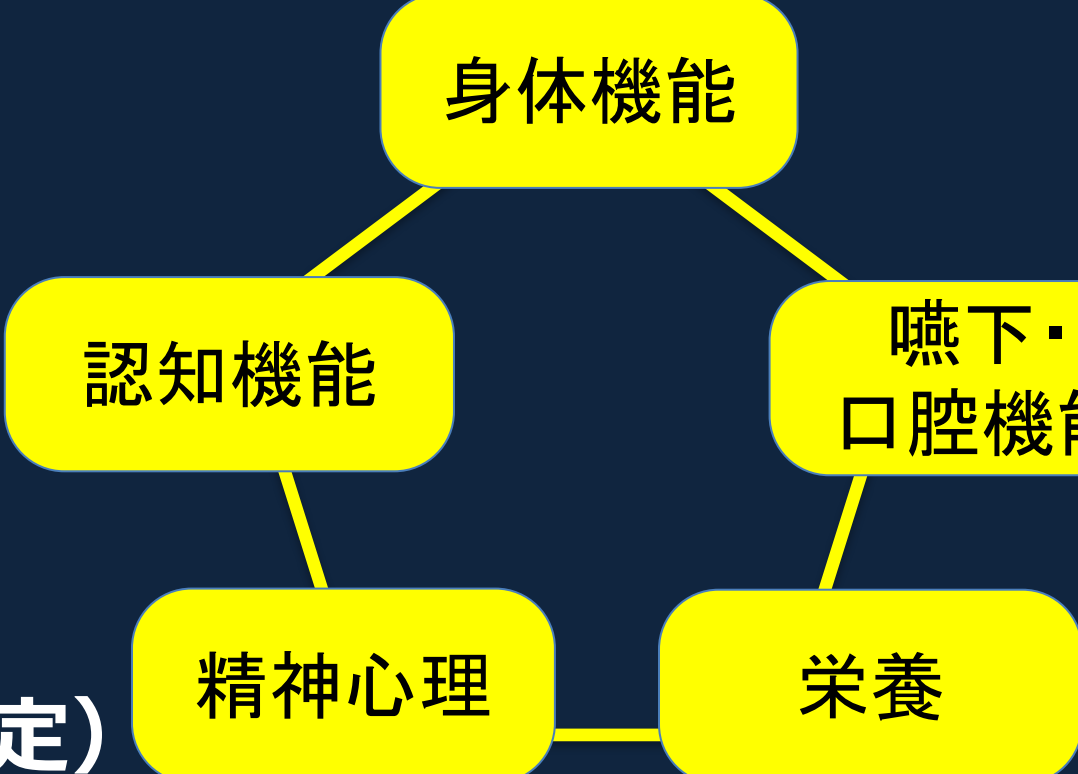


図2 大網白里市の要介護認定者数（要介護認定者率）の推移

病院資源の有効活用：リハビリテーション専門病院ならではの資源の提供

人的資源：専門職による活動

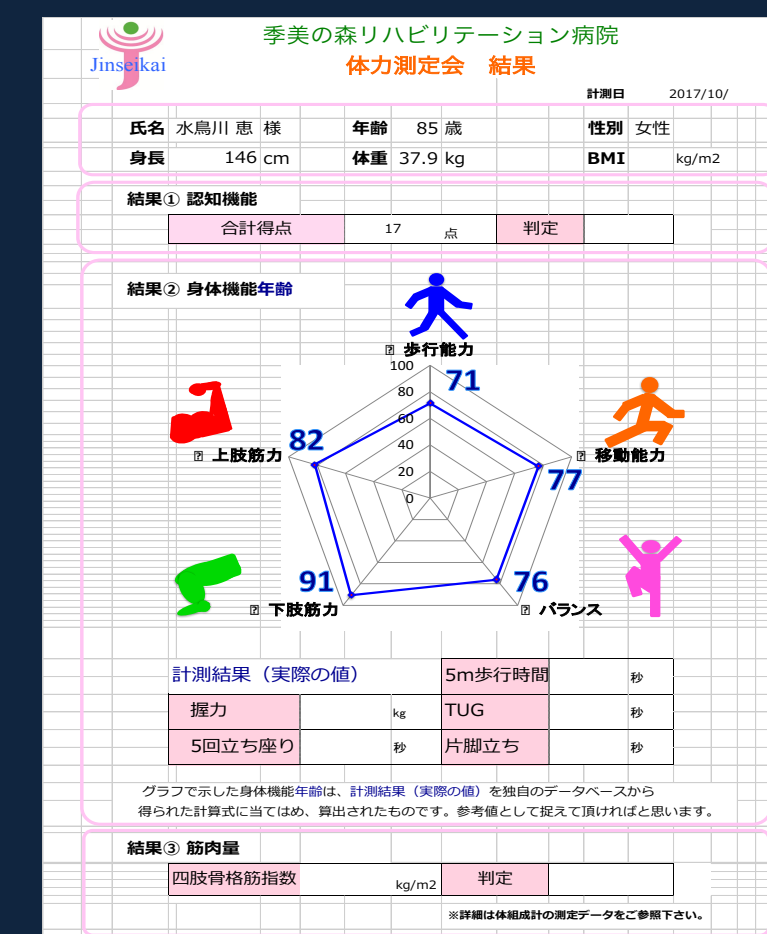
- 理学療法士 62名
 - 作業療法士 13名
 - 言語聴覚士 6名
 - トレーナー 3名
 - 管理栄養士 2名
- (※来年度以降も増員予定)



フレイル・介護予防に対し、有益な情報提供、有効な介入方法を提案できる人材が多数在籍
どの程度、活用できるかは今後の課題

Know-how

本院の通所リハビリテーションで提供している体力測定会の実施項目、測定結果シートを応用し、活用することも検討。



ご自身の身体機能や認知機能を客観的に把握して頂くことは介護予防に対する取り組みを継続していく上でも重要であると考えている。

計測機器：携帯可能なもの

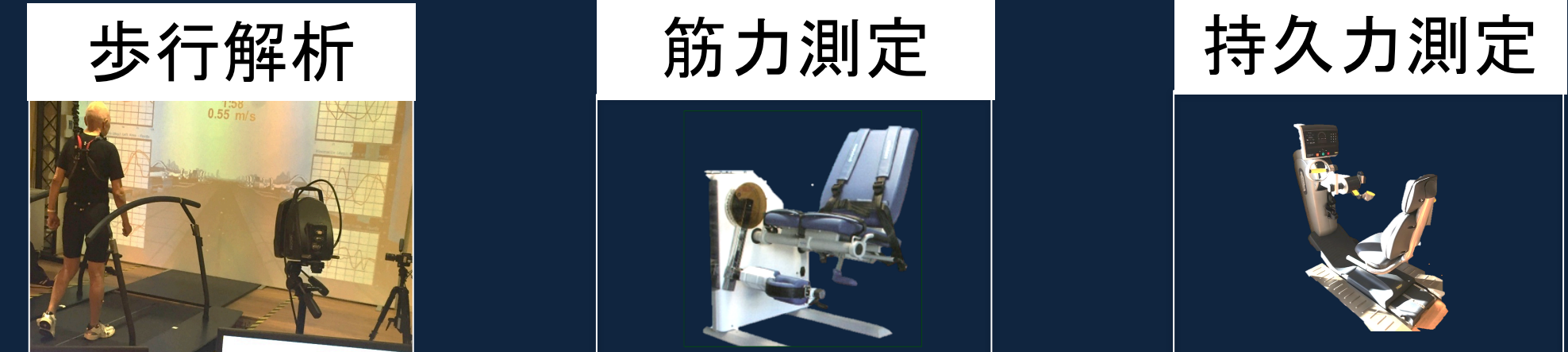
■ 本院では身体機能をより客観的に捉えるべく、様々な測定機器を活用し、日々、リハビリテーションの効果判定やプログラム内容の立案・変更を活かしている。**携帯可能な計測機器は会場へ持ち出し、調査・介入に活かしていく。**



サルコペニアの判定に用いられる筋力、骨格筋量の測定が可能。
口腔機能評価、オーラルフレイルの指標として用いられる舌圧の測定が可能。
呼吸器疾患の診断に用いられる呼吸機能測定や、呼吸筋筋力の測定が可能。

Field：設備の有効活用

- 本院にて**介護予防教室**などを企画し、地域在住高齢者に対し有益な情報を提供していく。
- リハ専門病院ならではの計測機器を活用することも検討。



東千葉メディカルセンター（整形外科 中嶋医師）と連携し、まずは周術期の変形性膝関節症患者者に対し、外来計測として歩行解析などを行い、得られたデータを基に有効な介入方法の提案を行っている。

講演活動：ふれあい・いきいきサロン

■ 大網白里市には60ほどのサロンが存在し、自治会館などで毎月イベントが催されている。今年度、大網白里市で活動されているサロンの1つである「みんなげんき会（季美の森）」にて**フレイルと転倒予防について講演の機会を設けた**。60～90歳（平均年齢70歳）の地域在住高齢者が30名以上集い、熱心に傾聴されていた。フレイル・転倒予防のための運動方法についても紹介し、参加者からは好評を得た。

■ 今後、サルコペニア（筋肉減少症）、ロコモティブシンドローム、骨粗鬆症などをテーマとした内容も取り入れていく予定。

サロンでの講演時の様子：「フレイル・転倒予防」をテーマに開催



介護予防教室の企画：大網白里市との連携

■ **大網白里市高齢者支援課と連携**を図り、地域在住高齢者を対象とし、「フレイル・サルコペニア予防」、「ロコモティブシンドローム予防」、「転倒予防」など介護予防に関わるテーマについての**講演や体操教室を提案**。「腰痛予防」など地域の方が興味を持っている内容も企画。



客観的データの提供
具体的な助言・介入
介入による効果検証

継続的な関わり

地域在住高齢者



自助力向上
理解度、実践力、
自己効力感、継続性
などの向上

フレイル・介護
予防への貢献

一方的な介入に留まらず、効果検証を行い、情報を返すことで地域高齢者の継続的な活動に繋がるよう支援していきたい